





ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	<p>2. RCIC系を起動する。</p> <p>(1) RCIC系隔離を解除する。</p> <p>(2) RCICタービンをリセットする。</p> <p>(3) RCIC系を起動する。<u>【#7前ページ参照】</u> S/P水位高又は、CST水位低の信号が発生した場合は、RCIC系の吸込弁の切替を行う。</p> <p>a. RCIC系 S/P 側吸込隔離弁 [MO-13-39, 41]を「開」する。</p> <p>b. RCIC系の CST 側吸込弁 [MO-13-18]「閉」確認。</p>		
C3-2.3	<p>低圧注水可能系統が作動しない場合は更に、代替注水系を起動させ、低圧注水可能系統が作動した場合は、不測事態「急速減圧」(C2)へ移行する。代替注水系が作動しない場合は、低圧注水系の復旧を図ると共に「EOP/SOPインターフェイス」(ES/I)へ移行する。(補3)</p> <p>代替注水系の起動手順</p> <p>1. MUW系(復水) (補4)</p> <p>(1) 復水移送ポンプを起動する。</p> <p>(2) 現場の各洗浄水弁「開」を確認し、各注入弁のCSを「開」とする。</p> <p>a. LPCI-A系注入弁 [MO-10-25A]</p> <p>b. LPCI-B系注入弁 [MO-10-25B]</p> <p>c. CS-A系注入弁 [MO-14-12A] (補5)</p> <p>d. CS-B系注入弁 [MO-14-12B]</p> <p>(3) RPV/PCV注入ライン流量調整弁 [MO-10-111]を「開」する。</p> <p>2. MUW系(復水)使用できない場合、消火系(FP)より注入する。</p> <p>(1) FP-MUW連絡第一弁 [MO-79-1250]を「開」する。</p> <p>(2) FP-MUW連絡第二弁 [MO-79-1251]を「開」する。</p> <p>(3) M/D消火ポンプあるいはD/D消火ポンプを起動する。</p> <p>(4) RPV/PCV注入ライン流量調整弁 [MO-10-111]を「開」する。</p> <p>(5) (4)までで注水できない場合、下記のECCS系の注入ラインのうち注入可能なラインの洗浄水弁を「開」する。</p> <p>a. RHR-A系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255A]</p>	<p>(補3)代替注水系の運転可能な原子炉圧力は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MUW系(復水) 0～0.98MPa ・CRD系 0～10.30MPa ・SLC系 — MPa ・消火系 0～0.98MPa ・RHR海水系 0～2.84MPa <p>(補4)MUW系(復水)は、RHR, CSの洗浄ラインを用いる。</p> <p>(補5)CS系開不能の場合、第2注入弁 [MO-14-11A, B]の開確認後下記ジャンパーをし第1注入弁 [MO-14-12A, B]を開する。</p> <p>(12A) PNL9-3 RE57Y02  ～ </p> <p>(12B) PNL9-3 RE59Y02  ～ </p> <p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p>	<p>解説 A-50</p> <p>参考資料 【参考5】 図3</p>

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	<p>b. RHR-B系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255B]</p> <p>c. CS系充水加圧 PCV バイパス弁 [V-79-751]</p> <p>3. CRD系 (1) CRD ポンプを起動する。 (2) CRD 駆動水流量調節弁 [FCV-3-19A/B] を手動にて「全開」する。 (3) CRD 駆動水圧力調節弁 [MO-3-20] を「全開」する。</p> <p>4. SLC系 (補6) (1) SLC タンク出口弁 [V-11-11] を「全開」にする。 (2) SLC ポンプ吸込ライン純水入口弁 [V-11-24] を「全開」する。 (3) SLC ポンプ起動キースイッチを「ポンプ A」又は「ポンプ B」位置とし SLC 系を起動する。 a. 潤滑油ポンプの起動を確認する。 b. SLC ポンプの起動を確認する。 c. 「ほう酸水注入中」赤ランプ点灯及び、「ほう酸水注入弁起爆回路断線」警報発生を確認する。 (4) CUW 系隔離を確認する。 (5) SLC ポンプ吐出圧力及びタンクレベルを確認する。</p> <p>5. 消火系 (補7) (1) 消火系～給水ヘッダー連絡メガネフランジを「通水側」にする。 (2) 消火系～給水ヘッダー連絡弁を「開」する。 a. 消火系～給水ヘッダー連絡ラインドレン弁 [V-32-123-1, 123-2] の「閉」を確認する。 b. 消火系～給水ヘッダー連絡弁 [V-77-40, V-32-107-1, 107-2] を「開」する。</p> <p>6. RHR 海水系 (補8) (1) RHRS-RHR 連絡メガネフランジを通水側にする。 (2) RHRS ポンプ(B)又は(D)起動 (補9) (3) RHRS-RHR 連絡弁を開する。 a. 格納容器海水浸水連絡ラインブロー弁 [V-10-288, 390] の「閉」を確認する。 (屋外主変圧器脇)</p>	<p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 2FL 東側)</p> <p>(補6)テストタンク使用の場合も、テストタンク出口弁開前にSLCタンク出口弁を閉にすること。</p> <p>(補7)消火系は給水ラインとの連絡管を用いる。</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(補8)RHR 海水系による海水注入は、緊急時対策本部 (TSC) 相談の上実施する。 (序-2-1 参照)</p> <p>(補9)RHRS ポンプが起動できない場合でも原子炉圧力が低い場合は注水ラインを構成すればろ過タンクの水頭圧差により雑用水系から原子炉へ注水することができる。</p>	<p>参考資料 (参考 5) 図 4</p> <p>参考資料 (参考 5) 図 5</p> <p>参考資料 (参考 5) 図 1</p>